

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援サンキッズ		
○保護者評価実施期間	令和 7 年 2 月 14 日		～ 令和 7 年 2 月 28 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16名 (14組)	(回答者数) 15名 (13組)
○従業者評価実施期間	令和 7 年 2 月 14 日		～ 令和 7 年 2 月 28 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 3 月 7 日		

○ 分析結果

	事業所の強み (※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○生活環境の充実 認定子ども園内に併設されている為、園の行事に参加したり、事業所を利用したりと親御様とお子様の意思に合わせて柔軟に対応できる。	園のイベントや行事だけでなく給食の提供もできるので、全員が同じ食器を使い、同じ食事を食べている様子(食べ方・姿勢・食スマナー)を見ることが出来る。また、アレルギーにも対応することが可能。	園内のお子様だけでなく、他園のお子様にも事業所を利用できる環境(午後)を提供していく。車を使用し、他園へのお迎えとご自宅への送迎も行っていく。
2	○活動環境の充実 指導訓練室にはスウィングやトランポリンがあり、屋外には人工芝の園庭や遊具もたくさんある。個室トイレと男児用がある為、ここに合わせて使用できる。	指導訓練室に加えて個別対応ができる部屋を用意してある為、個々に応じた対応ができる。雨天時は園内のホールも活用できる為、運動プログラムも充実している。	今よりも事業所以外の外出プログラムを増やしていくとともに、安全性を確保しながら支援できる環境を提供していく。
3	○活動内容・プログラムの充実 認定子ども園内に併設されていることもあり、園で保有している物品を使用できる。特に打楽器類が豊富な為、様々な音楽活動を行うことができる。	保育士の視点で、毎日違ったプログラムを提供している。準備にも時間をかけて、できるだけ個々の能力に合わせた内容になるよう工夫している。	次年度の職員および体制に左右されることになるが、どのような職種で支援をしていくのかを早急に把握し、それぞれの得意分野を發揮しながらプログラムを提供していく。
4	○情報共有の充実 認定子ども園内に併設している為、担任の先生を含めて職員間で情報共有が早急にできる。教室内の課題にも共通の理解をもって取り組むことができている。	認定子ども園で行う終礼時に出席して振り返り、お子様の様子を共有し、様々な職員の視点から意見を取り入れて共通理解を図っている。	引き続き、お子様の様子を支援後や当日の終礼時に共有していく。また、親御様からの相談事や悩み事については、認定子ども園の担任の先生も含めて全職員で共有し、助言や支援をしていく。
5	○相談等がしやすい環境 WEB上の支援システムを親御様と共有している為、気兼ねなく連絡がとれる関係性を構築できる。また、1～2月に1回の頻度で面談や連携会議等を行っている。	お子様の様子や気付いたことをWEB上の支援システムを用いてお伝えしている。メール機能もあり、都度、親御様からの要望も把握できるよう努めている。	引き続き、WEB上の支援システムを活用し、親御様との関係性を強化していく。また、定期的に関係機関連携会議(就学時も含む)や担当者会議等を開催していく。

	事業所の弱み (※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	認定子ども園の活動に合わせて運営していることもあり、イベントや行事等で当日のプログラム内容が変わってしまうことがある。	当法人の認定子ども園に登園しているお子様の利用が9割を占めている為、園のイベントや行事等の影響を受けやすい。	園のイベントや行事等に左右されないプログラムの工夫や作成をしていく。事業所内にかぎらず、事業所外での活動を増やせるよう努める。
2	保護者間で交流する場面や機会が少ない。	親子参加型でお子様の成長を感じられる発表会やプログラムの提供ができていない。	発表会は個々の課題によって全員参加が難しい為、親子参加型のプログラムを検討し、親子で一緒に楽しみながらお子様の成長を感じられるプログラム(イベントや行事等を含む)を提供していく。

3	他園から当事業所を利用するお子様がいない。	近隣にお住いの方々が対象となるお子様が少ない。当事業所から車で20～30分ほどの距離（市街地）でないと親御様のニーズがない。	今後は送迎距離と時間を延ばし、他園へのお迎え・ご自宅へのお送りを実施していく。
4	園内の親御様の当事業所に対する理解および認識に違いがあまりすぎる。	療育や児童発達支援という分野があることを認識されている親御様が少ない。	認定こども園の説明会やイベント・行事等で、療育ならびに児童発達支援の必要性を理解していただき、認識していただけるように啓発していく。
5	地域交流が特定の方（主に卒園生）になってしまう。	認定こども園内での活動ということもあり、園内のお子様の安全性等を考慮すると、地域の不特定多数の方々を一度に受け入れるのは難しい。	管理の行き届く状況下で、交流会の開催（参加人数・場所・時間等）を検討していく。